

平成 27 年度第 7 回遠野市総合計画審議会

分科会（10 月 5 日）審議要旨

大綱 1	自然を愛し共生するまちづくり分科会	…	1
大綱 2	健やかに人が輝くまちづくり分科会	…	4
大綱 3	活力を創意で築くまちづくり分科会	…	6
大綱 4	ふるさとの文化を育むまちづくり分科会	…	8
大綱 5	みんなで考え支えあうまちづくり分科会	…	10

大綱 1 自然を愛し共生するまちづくり分科会

- 日時 平成 27 年 10 月 5 日（月）午後 1 時 20 分～ 4 時
10 月 14 日（水）午前 9 時～
- 場所 あえりあ遠野 交流ホール

委員	座長：千葉 和 奥寺榮一（代理）、小松正真、佐々木栄洋、鳥屋部恵児
職員	仁田境整備部長、小時田消防長、伊藤 I C T ・医師確保担当課長、宮田市民協働課長、菊池ハブ遠野整備推進室長、石橋都市計画課長、新田環境課長、菊池水道事務所長、伊藤清養園クリーンセンター所長
書記	新田主査

1 自然と共生する環境づくり

- P 6 「遠野型新エネルギー」という単語の意味が分からない。補足説明が必要である。
- P 6 エネルギー施策に関する「補助制度を活用した民間導入を促進」という記載について、民間企業の参入を促すのか、市民の住宅等への普及を促すのか、補足が必要である。
- P 6 電気自動車の普及施策が欲しい。例えば、充電器は災害時の利用にも役立つため、コミュニティー施設への導入などを検討願いたい。
- P 6 バイオディーゼルの活用策、水素エネルギー施策も検討願いたい。
- P 7 「潤いのある自然景観」という記載について、景観に潤いがあるという言い方は正しくないと思う。どういう景観を意味するのか、補足説明が必要である。
- P 7 河川改修について、魚類のみならず他の生態の維持も含めた記載となるよう文面を検討願いたい。
- P 7 環境保全への理解を深める取り組みとして、環境教育と環境学習を推進する記載があるが、子供たちへ体験させることも重要である。知識の醸成だけでなく、体験活動についても記載して欲しい。
- P 9 まちづくり指標 101 市民 1 人 1 日当たりのゴミ排出量について H26 の排出量より、H28 が増えているが、減らしていくべき指標。精査中の H29 以降の

数字も前年比減となるように。

可燃ごみは減少傾向、資源ごみは増加傾向と、理想の流れになっているが、指標は両方を合算した数値となっており、成果が曖昧になっている。可燃ごみと資源ごみの指標を分けて設定すべきではないか。

○ P 9 まちづくり指標の追加検討

第2次総合計画の大きな変更点として、新エネルギービジョンの策定が挙げられる。エネルギー施策に関する指標が欲しい。例えば、快適住マイル応援事業と同様に、新規事業のスマートエコライフ推進事業の申請件数を位置付けてはどうか。

○ P10 「新たな景観形成」という記載について、今までとは異なる新しい景観を作り出すように感じてしまう。誤解が生じないような記載内容とすべき。

○ 主要事業について

スマートエコライフ推進事業について、太陽光設備のみではなく、薪ストーブも検討願いたい。

2 快適な居住環境の形成

○ 主要事業について

快適住マイル応援事業と新規のスマートエコライフ推進事業はどちらも住宅施策であるため、統合することを検討願いたい。

3 道路交通基盤の充実

○ P23 大工町通りの木歩道の修繕が新規事業として位置付けられている。国土交通省大臣表彰を受けるなど高い評価を受けていることから、駅前通りの無電柱化事業で木歩道化を検討してはどうか。管理費、冬季の凍結による危険性、バリアフリーに反するなど課題もあるが、市の玄関口であり来訪者へのPR効果は大きい。林業振興施策にもなる。

○ P24 「駅舎の改修」という記載は、市内全部ではなく遠野駅のみに限定した取り組みであることを補足すべき。

- P24 パーク&ライドについて検討してはどうか。
※パーク&ライド：観光地などの交通渋滞の緩和のため、自動車・自転車等を駅やバス停などに設けた駐車場に停車させ、そこから鉄道や路線バスなどの公共交通機関に乗り換えて目的地に行く方法である。
- P24 駅舎改修等による新たな魅力づくりの内容について、利用者拡大など具体的に記載すべき。

4 安心安全な地域づくり

- P28 自然災害について、地震や強風による災害も記載すべき。
- P28 治山治水は砂防ダムのほか、森林保全による防護策も考えられるため、その点も明記すべき。
- P36 情報通信技術（ICT）と同様に、FTTH、LAN、Wi-Fiについての補足説明も検討願いたい。

大綱 2 健やかに人が輝くまちづくり分科会

■日時 平成27年10月5日（月）午後1時30分～4時

10月14日（水）午前9時～

■場所 あえりあ遠野 交流ホール

委員	座長：河野好宜 千葉純子、菊地セツ子、菊池一晃、松田希実
職員	菊池ICT・医師確保担当部長、古川健康福祉部長、沖舘福祉課長、 佐々木子育て総合支援課長、千葉保健医療課長
書記	松田主査

1 健康づくりの推進

- 健康について、女性の関心は高いが、それに比べて男性は関心が低いようなので、食育を含めて子どもから現役世代、特に男性にどのように訴えていくかを施策の中に考えながら進めてほしい。
- 特定健診や特定保健指導の受診率がなかなか上がらないため、受診者を増やすために、遠野市医師会や病院などが協力し、連携して進めていく必要がある。
- ICT健康づくり事業において、参加者の血圧データや採血結果などもあると思うが、そのデータを参加者が病院受診した際にも生かしたいので、情報を提供していただきたい。個人情報の観点から難しい点もあるかと思うが、日頃の状況も分かり、医療費の無駄な経費も抑えられるので検討して欲しい。
- 健康づくりを包括的にまとめて地区センターのあり方を考え、地区センターの再編を考えて欲しい。
- まちづくり指標 NO.204 の「朝食をとる子供の割合」は現状でも 94.8%と高く、現在においてもほぼ達成されているので、もう一步踏み込んだ新たな指標設定を検討してほしい。
- まちづくり指標の NO.211 「スポーツの利用者数」は、同じ人が利用した累計であるが、「自分の健康は自分で守る」という観点から、この指標は全市民を対象とした指標設定を検討してほしい。
- 来年、国体開催のためスポーツ施設を整備し充実してきている。この施設を市民が健康づくりをする場として、どのように活用するかを検討してほしい。

- 現役世代が、なかなかスポーツに取り組めない現状を踏まえ、1日15分でもスポーツをしながら、日常的に健康づくり活動をしていただくよう、体制やPRを含めて検討して欲しい。
- 医師確保については、遠野市内から医師になる方もいるので、遠野市内に来て働いていただくよう、医師になる家族の方々ともコミュニケーションを図ってほしい。

2 地域福祉の充実

- 地域福祉は、行政だけではなく地域の方々の協力がなければできない。その人たちに協力していただけるような啓発活動をする時期にきている。自助・共助・公助という言葉が分かりやすく打ち出すことが必要である。
- 老人クラブは地区の一団体である。会員といっても人によって違うので、十把一絡げの活動ではなく、会員の活動したい個別ニーズを把握することが必要である。より柔軟な組織にするためには活動マニュアルなどがあればよい。また、各地区の老人クラブ間の連携を図ることも重要である。
- 遠野市が遠野市地域福祉計画を作成し、社会福祉協議会が地域福祉活動計画を作成している。社会福祉協議会も経営が厳しくなっている。市から社協に助成するにも、プラス共通管理費などを上積みしてあげないと社協も事業するのに管理費がかかる状態であるので、検討する必要がある。

3 子育て支援の推進

- 「子育てするなら遠野」は市内では周知されているが、市外から人を呼び込む点から市外向けのPRが必要である。また、地元の高校生が卒業する時に、「子育てするなら遠野」のパンフレット等を渡すことで、進学や就職で市外に一度転出しても、ある機会にパンフレットを見直して、遠野に帰りたいという人もいると思う。
- 「子育てするなら遠野」は、他の市町村とは違う遠野独自のインパクトのある事業が必要。若い人たちに来てもらうために、家賃補助や土地は安く提供するなど徹底して行った方がよい。そして将来は「住むなら遠野」につなげる。交通インフラも整備されてきたので、市外に勤めていても遠野で暮らすこともできる。
- 少子化対策だけではなく、就業・出会い・妊娠・出産・子育て・教育を含めて「子育てするなら遠野」を打ち出し、遠野に住む優位性をだす。そのためには、空き家対策などの受入環境整備も含めて構築する必要がある。

大綱3 活力を創意で築くまちづくり分科会

■日時 平成27年10月5日（月）午後1時50分～3時45分

10月14日（水）午前9時～

■場所 あえりあ遠野2階「こぶし」

委員	座長：菊池一勇 菊池修市（代理）、菊池完（代理）、佐々木弘志、高宏美鈴
職員	飛内まちづくり再生担当部長、佐藤産業振興部長、大里農林畜産部長、小向農林振興課長、菊池地域振興課長
書記	赤石澤主査

◎ 総論

全体的な政策・施策・基本事業について異論はないが、個々の政策について以下の意見が出された。

1 農林業の振興

- 農業の維持は永遠の課題。収益が上がらない、後継者がいないなどの課題もあるが、遠野市のような山村地域では、農業あってこそ地域が活性化される。地域が衰退すれば市全体も停滞する。小さな農家や地域を切り捨てず、自助努力を促してほしい。
- ほ場整備を進めてほしい。現状では若者に就農を勧められない。若者の就農が農業の拡大や林業振興のみならず、地域づくりにもつながっていく。
- 指標No.324の「森林整備面積」は、国の補助金もカットされ、現実的には厳しいのではないかと。No.325の「民有林再造林面積」も、実働者が減少している。No.328の「松くい虫」は、もっと大きい面積で駆除し樹種転換を図るべきである。
- 山主は自分の山を知らない状況である。境界確認を進めるべきである。
- 指標No.326「木工団地事業体の売上高」の15億円はもっと増やせるのではないかと。
- 遠野牛のブランド化が広がっていないように思える。もっと推進するべきではないかと。

2 商工業の振興

- 市内の商工業者はほとんどが小規模の企業。企業誘致も大事だが、地元の企業への支援によって若者の定着を図るべきである。
- 市内の宿泊客の7割はビジネス客である。遠野の企業が元気になり、宿泊客も増加するといった一体的な流れをつくってほしい。
- 遠野牛は価格が高い。下位部分で良いから、市民が食べられる値段で提供するなどして欲しい。パドロンも遠野で生産しているにも関わらず、遠野で食べたり買ったりするところがない。市民みんなが食べられるブランドを考えていくべきではないか。
- 遠野駅舎の活用策の検討を進めてほしい。まちなかから銭湯が無くなったがニーズはある。例えばスーパー銭湯のようなものも活用策の一つではないか。

3 観光と交流のまちづくり

- イベントの日程が重なるのは、もったいない。情報を共有し、重ならないように日程を組んだほうが、集客や経済的にも効果が出るのではないか。
- 94 ページに「地域資源を生かした郷土料理」とあるが、思い浮かばない。ひつつみも市内で食べられる店は少ないし、ジンギスカンといっても市内で羊を生産していない。もっと幅広い年代や違う分野の人からのアイデアを聞きながら、遠野ならではの食材や料理の考案が必要ではないか。
- 近隣の国との交流が必要ではないか。例えば台湾は日本から3時間で行ける。遠野との関係も深いし日本語も通じる。もっと現実的な国際交流や経済交流へシフトしてもよいのではないか。

4 その他

- 第1次総合計画の推移がわかる資料があればよかった。
- 現状と課題、施策の方向についての根拠を示してほしかった。

大綱4 ふるさとの文化を育むまちづくり分科会

- 日時 平成27年10月5日（月）午後1時20分～4時10分
10月14日（水）午前9時～
- 場所 あえりあ遠野 やまぼうし

委員	座長：菊池香南子、 佐々木國允、工藤和信、菅沼隆子、菊池広樹
職員	小向文化研究センター部長、立花生涯学習スポーツ課長、米内教務課長、 菊池総合食育推進課長、菊池総務課長、片方学校教育課指導主事
書記	佐々木主任

1 ふるさと教育の推進

- ふるさと教育とは、どのような教育なのか、市外の人にもわかりやすいような表現にしてはどうか。
- 大人の就業状態などの影響で、子どもの保育状況に差が出ないようにしてほしい。
- 核家族化の進行などによる影響で、親以外の大人が子どもに関わる機会が少なくなっている。地域に関わることは重要である。
- 就学前に特別な支援を要する子どもかどうかの判断をし、早くから対処することが子どもにとっても家族にとっても良いと思う。要支援の子どもに関する情報提供の取組がもっと必要である。
- 食事の大切さ、早寝早起きなど生活習慣の大切さを小さいうちから身に付ける取組を行ってほしい。特に、食育指導に力をいれることは、地産地消にもつながる。
- 学校教育と地域社会との連携は大切だが、地域教育協議会の持ち方など各町によって温度差がある。中学校の再編もあったので、取り組み方を見直す時期なのではないか。
- まちづくり指標402・403「小中学校標準学力検査偏差値」について、全国の偏差値や岩手県の偏差値の説明がなく、指標の値が妥当かどうかの判断ができないので、分かりやすい説明をしてほしい。

2 生涯学習の推進

- まちづくり指標 407「全講座における継続的な学習機会の割合」の目標値が高いのではないかと。目標値はどのような理由で設定されているのか。
- まちづくり指標 411「市民協働の芸術文化事業の参加者数」及び 412「市民協働の芸術文化事業の観覧者数」について、どの事業が対象となるのかも一度確認してほしい。

3 ふるさとの文化の継承・創造

- 図書館活動の推進について、市立図書館と学校との連携を深めてほしい。市立図書館の利用と学校の図書活動とを連動させるような取組を期待する。
- 遠野遺産に認定されても、その後、保護や活用がされないケースがあるのではないかと。もっと地域への呼び掛けを行い、遠野遺産の取組を普及・周知してほしい。
- まちづくり指標 426「市史編さん事業進捗率」について、指標設定の考え方が分かりづらいのではないかと。
案1) 事務的進捗状況と市史編さんのための普及・広報活動の二つに分けてはどうか。
案2) 年度ごとの進捗率ではなく、全体の完成に対する進捗率ではどうか。
案3) このままでよいのではないかと。
いずれにしても、もう少し分かりやすく説明を加えたほうが良いと思われる。

大綱5 みんなで考え支えあうまちづくり分科会

- 日時 平成27年10月5日（月）午後1時20分～4時
10月14日（水）午前9時～
- 場所 あえりあ遠野 ふるさとライブラリー

委員	座長：臼井悦男、 内館充幸、千代川朝子（代理）、菊池修一（代理）、菊池陵太
職員	菊池経営企画部長、荻野総務部長、鈴木市民センター所長、澤村財政担当課長、千田まちづくり再生担当課長
書記	新田副主幹

1 住民主体のふるさとづくり

- 人口減少が進む中、県でも、コミュニティー分野においては、若者や女性に視点を置き、その人たちが活躍できるように取り組みたい。
- 進化まちづくり検証委員会の提言を受け、今後の議論にもよると思うが、地域づくり計画の策定数を、まちづくり指標としてもよいのではないか。
- 婦人会では、40代より若い人が少なく、30代、40代の確保が課題となっており、その対策が必要である。
- 指標 No. 501 では河川清掃の参加者数について。多面的機能の事業でも環境を視点に水路の補修等にも取り組んでいる。普段の活動を含めると難しい面もあるが、1日の活動だけで把握すると全体が見通せないものがあると感じている。
- 市長と語ろう会は、日中の開催であれば女性等も参加しやすいのではないか。市長と部長が並んでいると威圧感を感じる人もいるのではないか。若い世代が参加し、市政に関心を持つことが大事である。
- まちづくり指標で、市長と語ろう会は、実施回数ではなく、参加者数としてもよいのではないか。

2 行財政基盤の強化

- 職員の削減を進めるのは、ある意味、正しいかと思うが、現場をみると職員が足りない

と感じる場面がある。役所の職員が人事異動でかわると対応がかわるとか、こちらから説明しないと分からないとかの例もあると聞くので、遠野市では、そのようなことがないように配慮すべきである。

3 行政サービスの向上

- 高速道路の開通により車が宮守を通らなくなる懸念があるので、情報ビジネス校の跡地活用に期待したい。
- 愛知県では、廃校になった跡地を改修して、地域が会員制のスポーツクラブとして利用している例もあるので、参考にしてほしい。
- 日本の文化ではあるが、ユニバーサルデザインを進めるのであれば、靴をはいたまま入れる地区センターを検討してもよいのではないか。

4 その他

- まちづくり指標の設定においては、現状をよく踏まえて、5年後を見据えた数値設定を行ってほしい。

